

# 感謝と祈りの理由



2026年 1月10日 第2課

そして、あなたがたの  
うちに良いわざを  
始められたかたが、  
キリスト・イエスの日  
までにそれを完成して  
下さるにちがいないと、  
確信している。

ピリピ 1:6

(口語訳聖書)



あなたがたの中で  
善い業を始められた方が、  
キリスト・イエスの  
日までに、その業を  
成し遂げてくださると、  
わたしは確信しています。

ピリピ 1:6

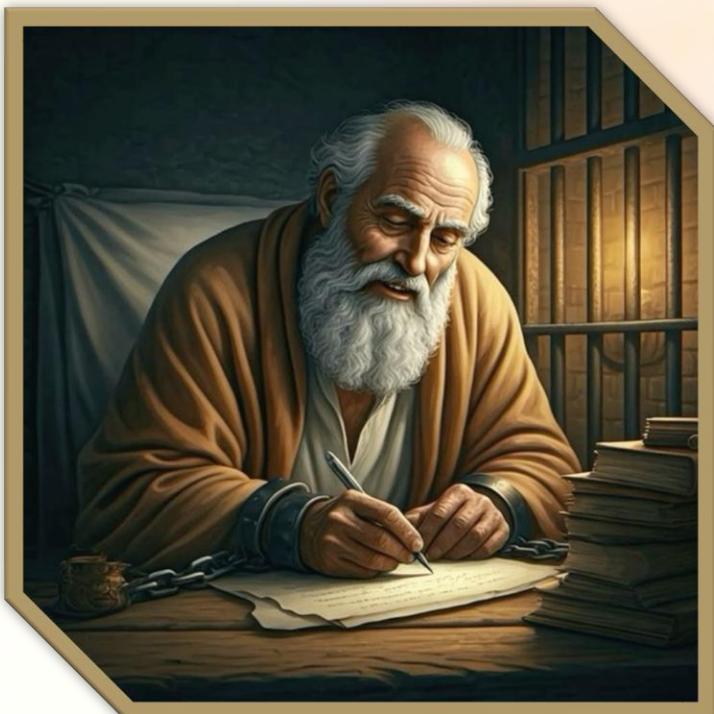
(新共同訳聖書)



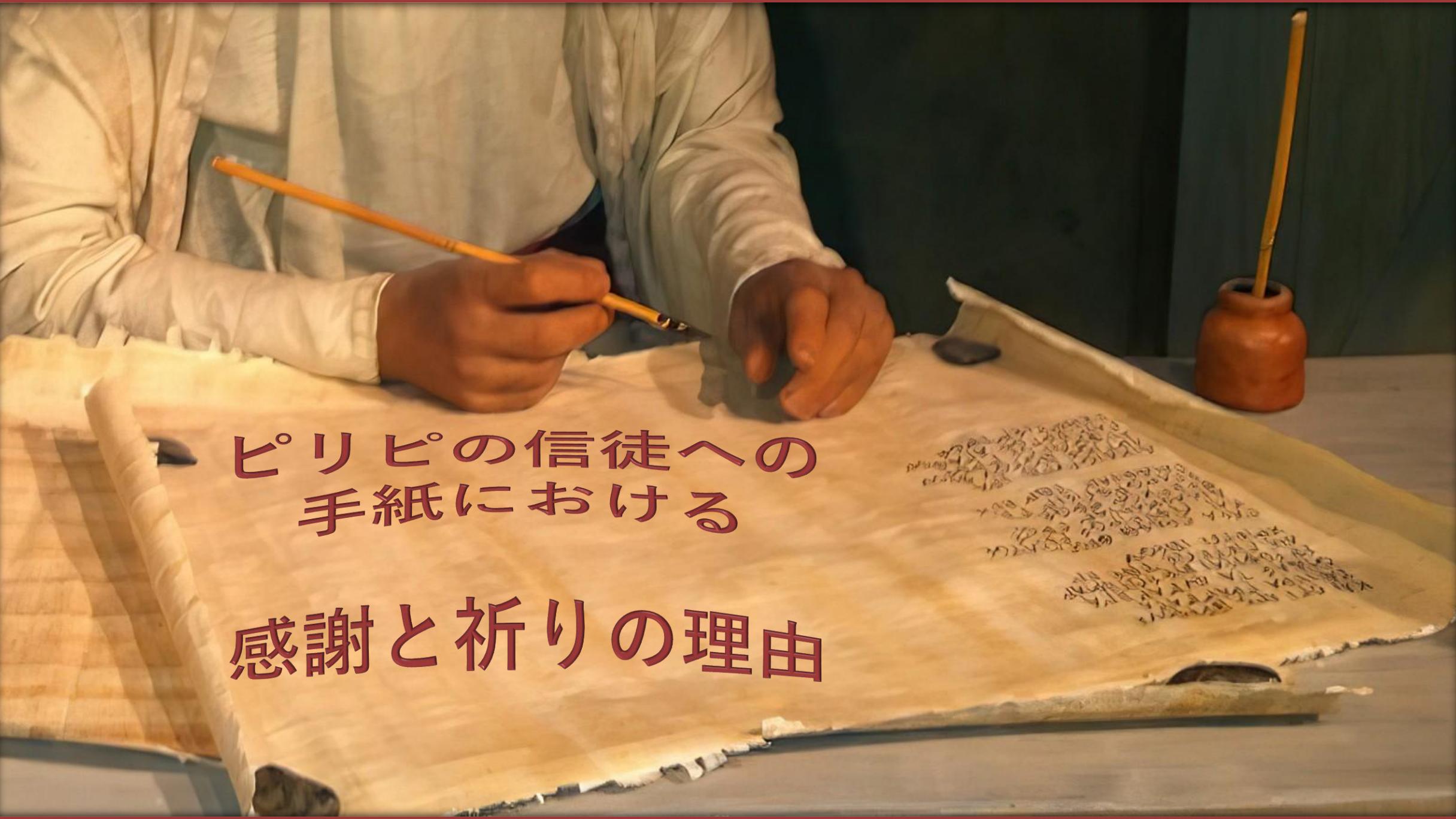
パウロにとって、これは容易な時期ではなかった。自由を失ったことで絶望に屈するのは簡単だっただろう。

しかし、パウロは、あの厳しいフィリピの牢獄で讃美歌を歌ったのと同じように、フィリピとコロサイの兄弟姉妹たちに伝えるべき感謝の理由を見出した。

彼の投獄は、父との交わりを続けることや、祈りを通して他者のために執り成すことを妨げることはなかった。



- ➡ フィリピの信徒への手紙における感謝と祈りの理由:
  - ➡ 福音の交わり(ピリピ 1:3-8)
  - ➡ パウロの祈りの願い(ピリピ 1:9-11)
- ➡ 困難な時にも感謝して祈る靈的に見抜く力の適用 (ピリピ 1:12-18)
- ➡ コロサイ人への手紙における感謝と祈りの理由:
  - ➡ 福音の実(コロサイ 1:3-8)
  - ➡ 祈りの力(コロサイ 1:9-12)



ピリピの信徒への  
手紙における  
感謝と祈りの理由

# 福音の交わり

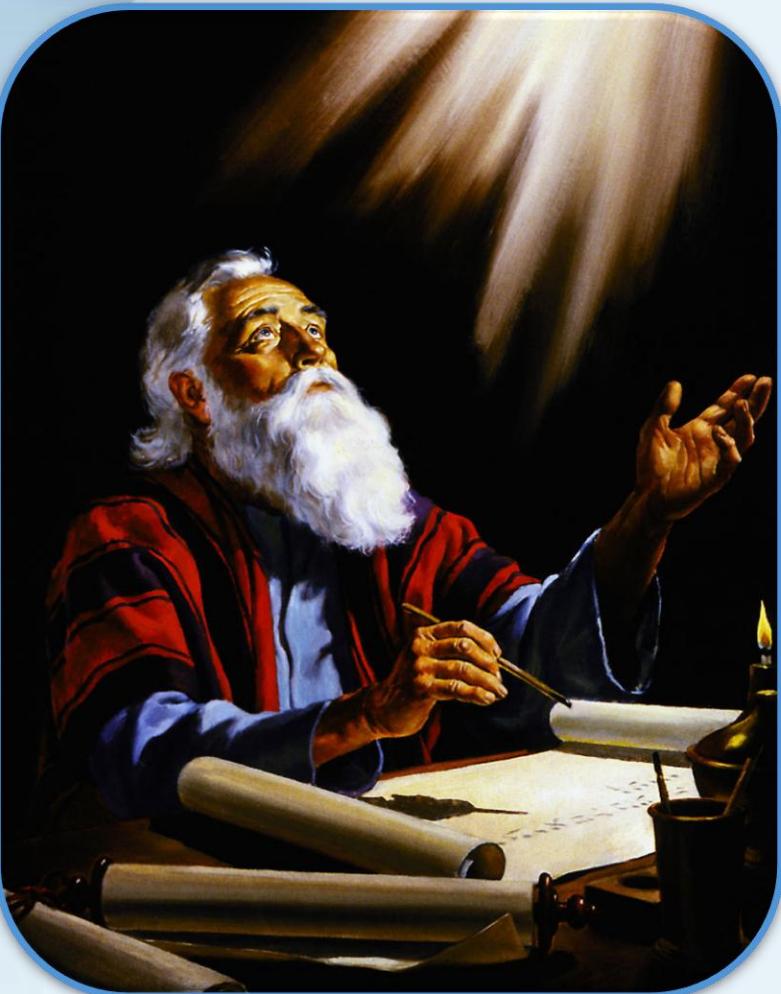
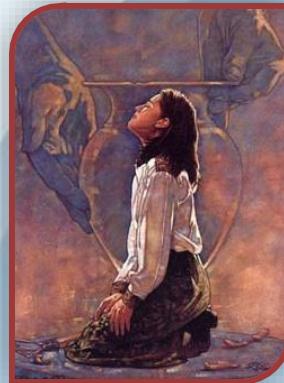
そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。(ピリピ 1:6)

パウロは手紙の冒頭で、ピリピの信徒たちに対して神に感謝を捧げている。(ピリ 1:3) 彼は彼らを深く愛していたのである。(ピリ 1:8)

祭司長が神の御前に立つとき、胸当てに宝石に刻まれたイスラエルの部族の名を心臓のすぐそばに身につけたように、パウロもまた祈りの中で神の御前に立つとき、各教員を「心の中に」抱き、彼らのために執り成したのである(ピリ 1:7)。

彼の感謝には、ピリピの信徒たちが福音に忠実であり続けたこと、そして神が日々彼らを完成させておられることが含まれていた(ピリ 1:5-6)。

感謝すべき第3の理由は、ピリピの信徒たちが「私の束縛の中、また福音の擁護と確立において」彼と共にあずかったことである。(ピリ 1:7)。



神が「その(善い)業を成し遂げてくださる」  
〔口語訳「それ（良いわざ）を完成して  
下さる」〕（フィリ〔ピリ〕1:6）という  
約束をあなたはどのように理解しますか。  
このわざは再臨前に終わるのでしょうか。

# パウロの祈りの願い

わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。(ピリピ 1:9-11)



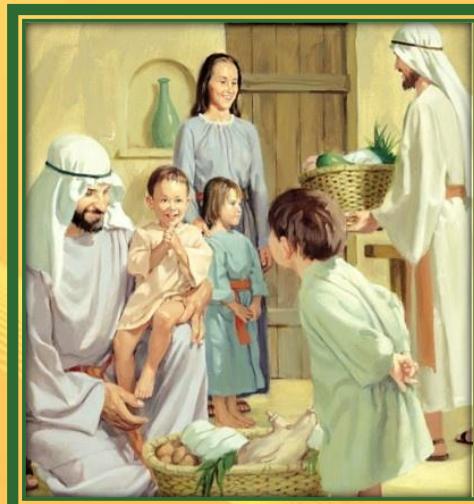
愛があなたの中に満ちあふれますように

私たちの愛はどのようにして「ますます豊かになる」のでしょうか？なぜそれがクリスチャンの生活にとってそれほど重要なのでしょうか？

パウロの祈りの動機を「連鎖する理由」と捉えることができる（ピリ 1:9-11）：

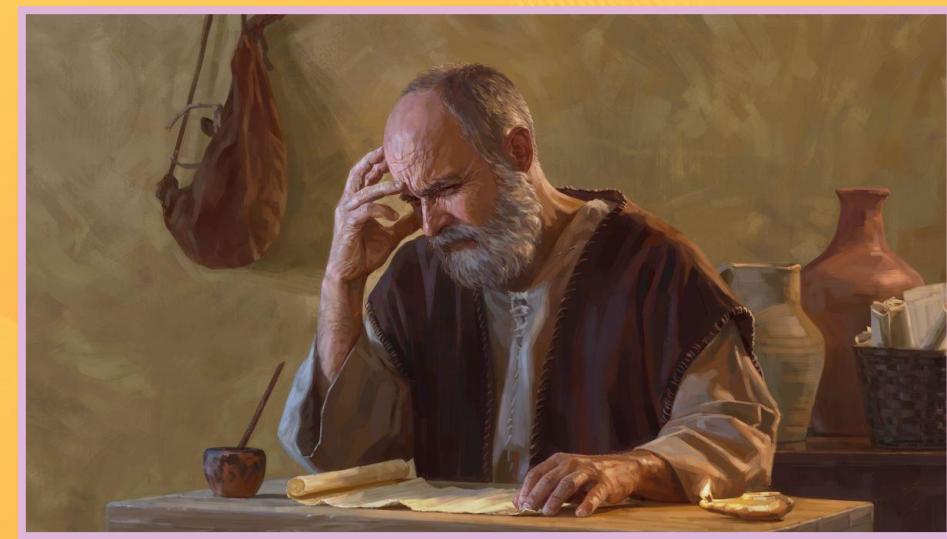
それはあなたをより賢くするでしょう

最善を見極めるでしょう



あなたはイエス・キリストを通して実を結ぶでしょう

これは神への栄光と賛美をもたらすでしょう



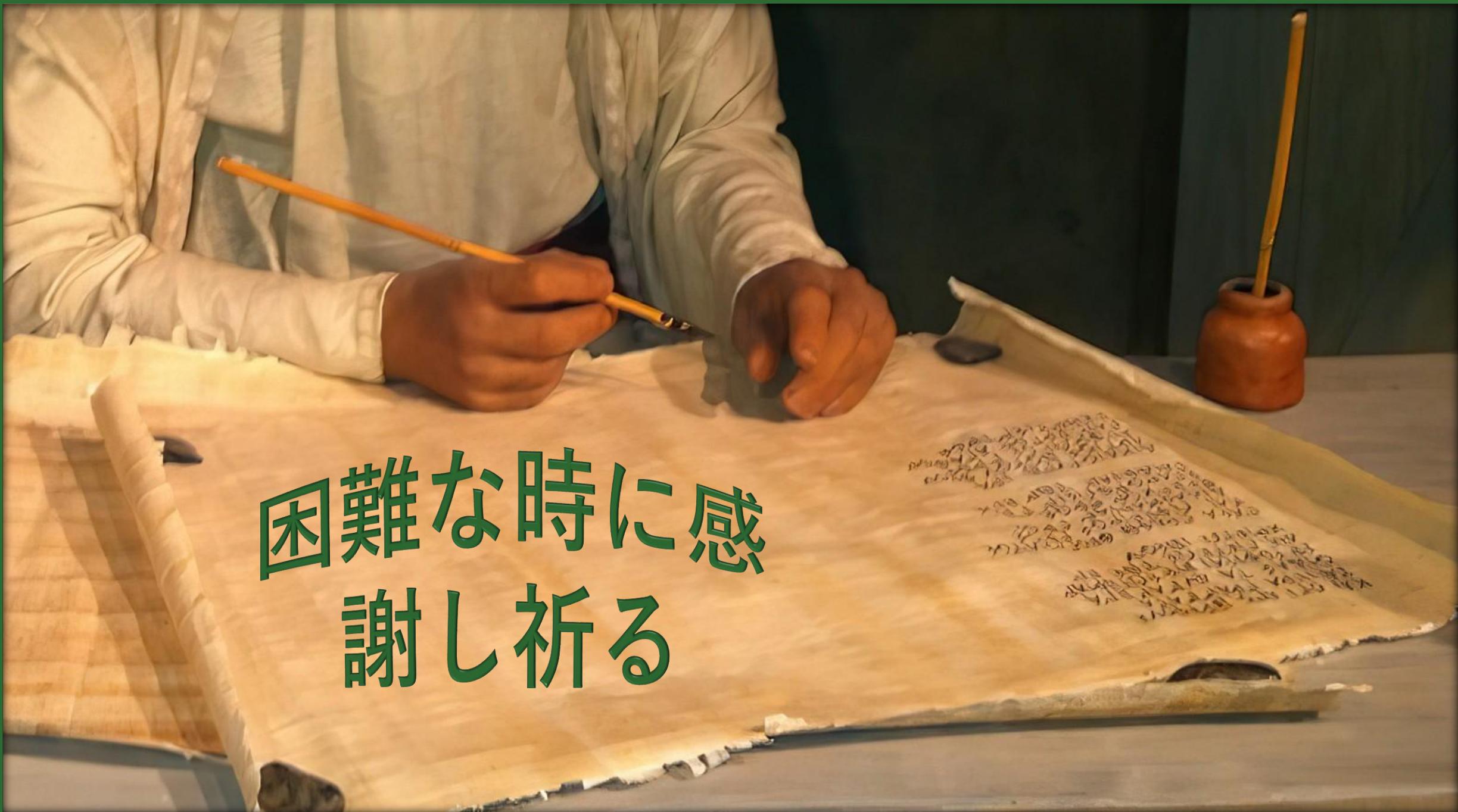
たとえ他に何をしようとも、  
どうして私たちの愛が「ますます豊かになる  
(いよいよ増し加わる)」のでしょうか

(フィリ [ピリ] 1:9)。

なぜそれがクリスチヤンの生活にとってそれ  
ほど重要なのでしょうか？(参照：Iコリ**13:1-8**)

たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

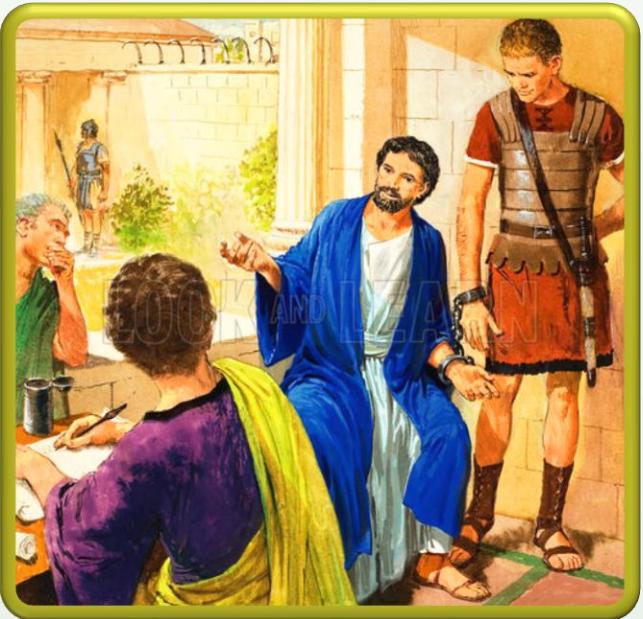
困難な時に感  
謝し祈る



# 福音を擁護する機会

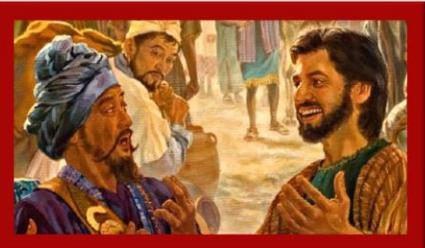
さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。  
(ピリピ 1:12)

ピリピの信徒たちは、パウロがローマで投獄されていることを知ると、深く憂え、使徒への援助を携えてエパフロディトを遣わした（ピリ4:18）。

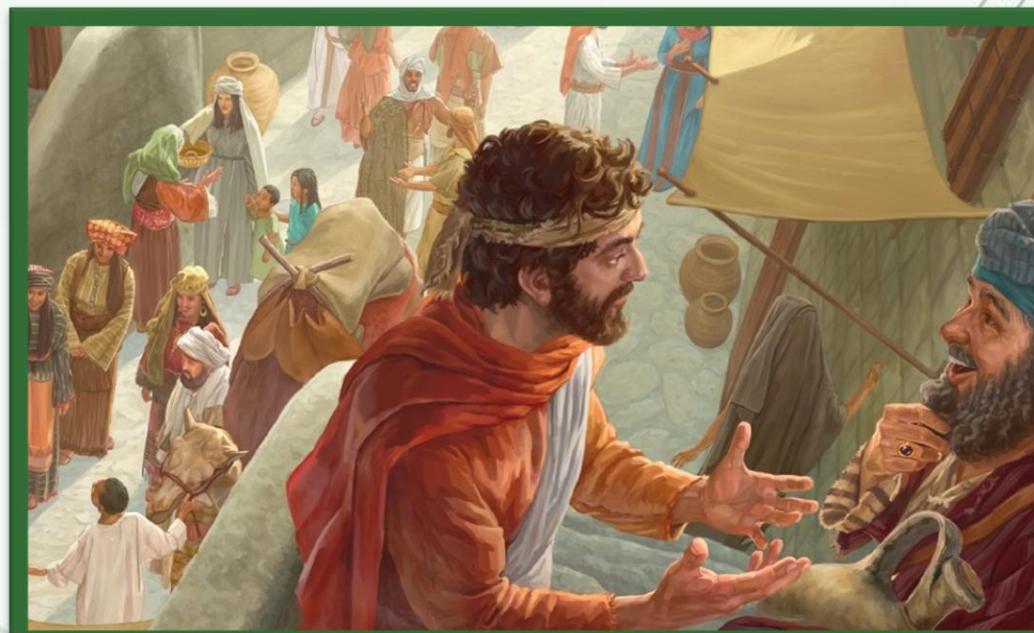
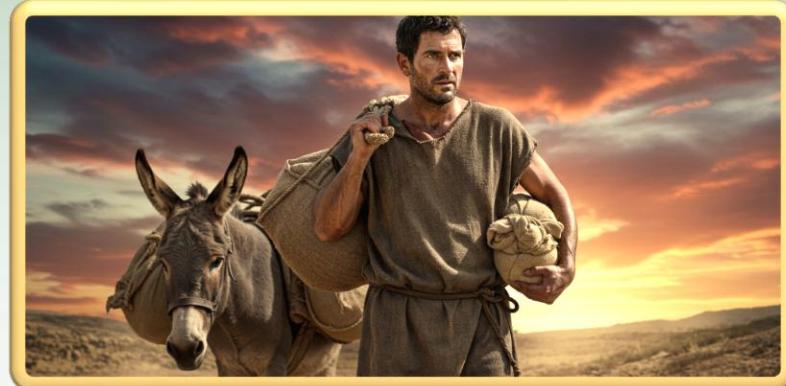


パウロは投獄されたことを悲しむどころか、むしろ神に感謝した。なぜ感謝したのか。この投獄によって、そうでなければ決して届かなかつた人々に福音を宣べ伝えることができたからである（ピリ1:13）。

さらに、使徒の態度を見て、他の信仰ある兄弟たちも励まされ、困難を顧みず福音を宣べ 伝え始めたのである（ピリ1:14）。

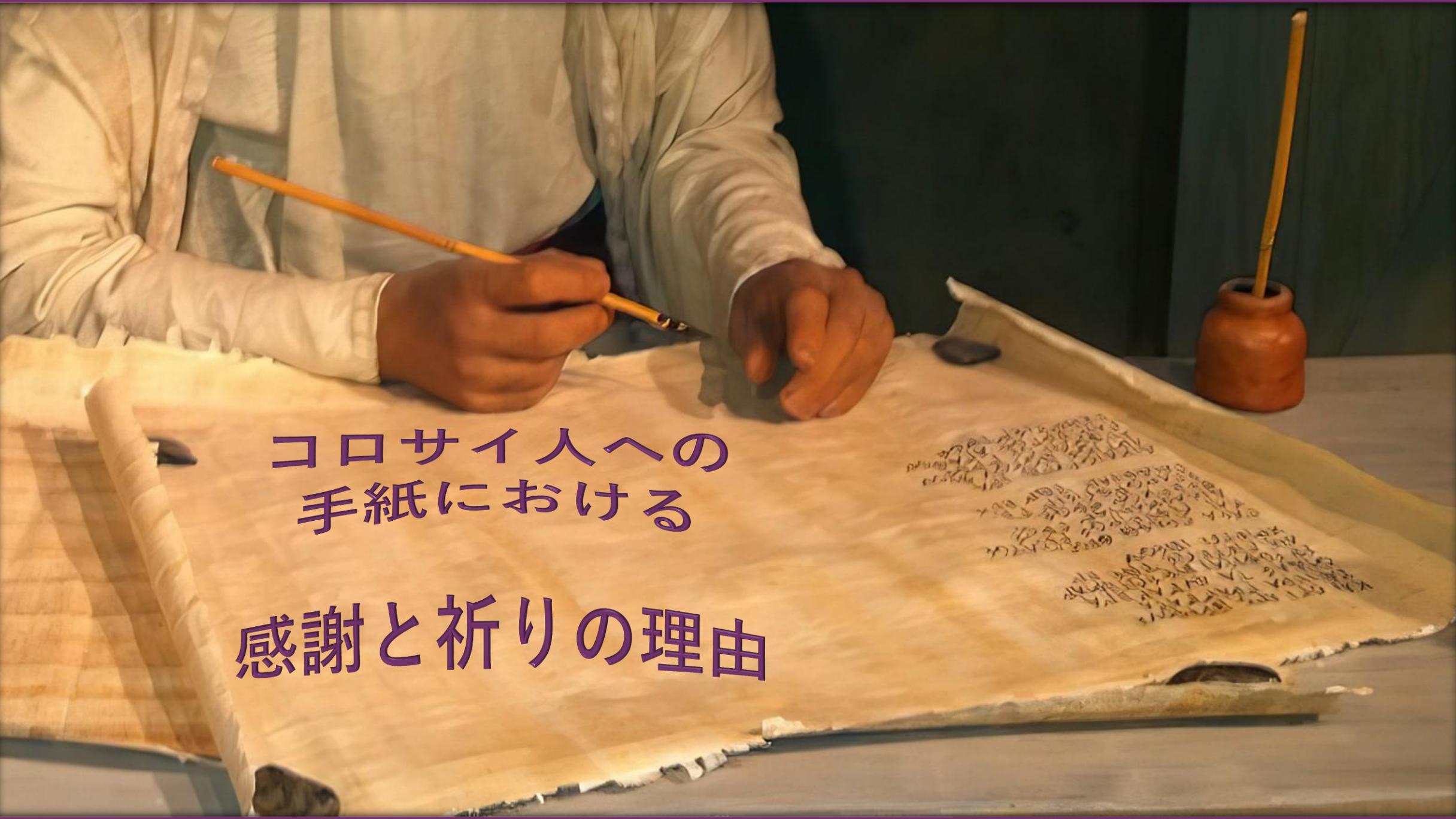


また、福音について公に語ることがパウロに困難をもたらすと考えた人々も、意図せずして福音を広めることになった（ピリ1:15-18）。



明らかに悪い経験ではあるものの、同時に何らかの益をもたらした経験から、あなたはどんな教訓を学びましたか。

たとえ益が明らかでない場合でも、どうしたら神を信頼することを学ぶことができるでしょうか。



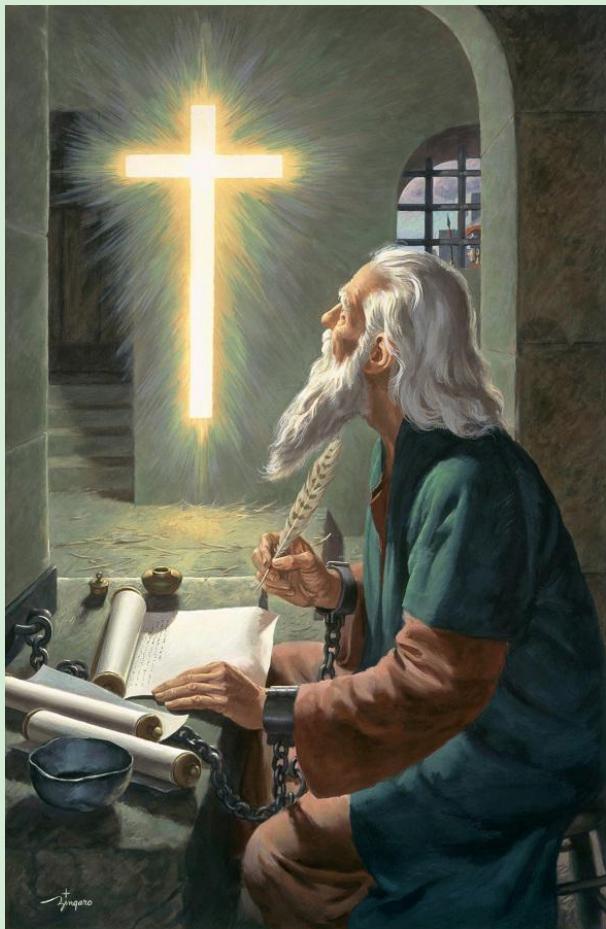
コロサイ人への  
手紙における

感謝と祈りの理由

# 福音の実

わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。  
(ヨロサイ 1:3)

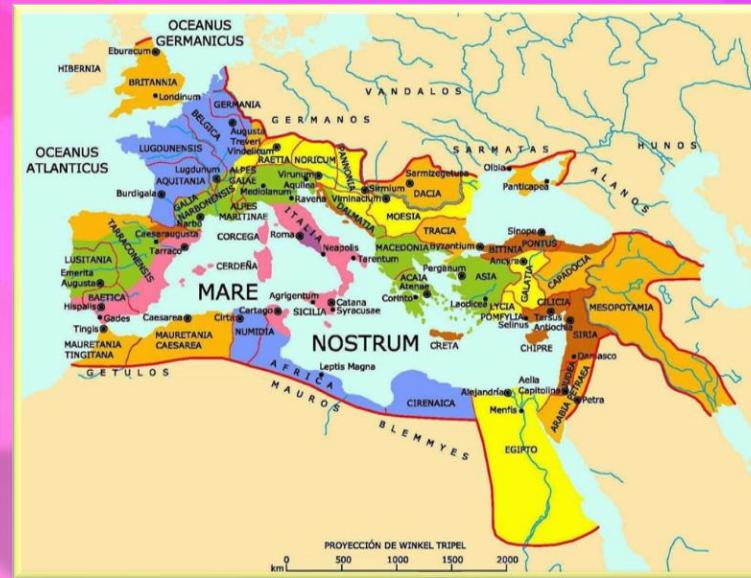
コリント人への第1の手紙13章13節の言葉を引用し、パウロはコロサイの信徒たちが信仰、希望、愛という三つのキリスト教的美德を備えていることを神に感謝している（コロ1:4-5）。



これらの美德は「キリスト・イエスにおいて」生じ、「すべての聖徒たち」との関係に影響を与え、「福音の真実の言葉」を通して私たちに伝えられてきた。

パウロは、この福音はコロサイ人だけに宣べ伝えられたのではなく、「全世界に」宣べ伝えられたと強調している（コロ1:6）...そしてわずか30年で！

聖霊の働きによって福音を通して伝えられる神の力は、聖書を「いのちの言葉」（ピリ2:16）とする。これは、福音を受け入れることによって、私たちは永遠のいのちと「天に備えられている」相続分（コロ1:5）を持つことを意味する。



コロサイ1:5で、パウロは「あなたがたのために天に蓄えられている希望」〔口語訳「あなたがたのために天にたくわえられている望み〕について書いています。あなたはその希望（望み）をどのように理解していますか。

そして、あなたが本当にふさわしくないにもかかわらず、なぜそれがあなた個人に当てはまるのでしょうか。

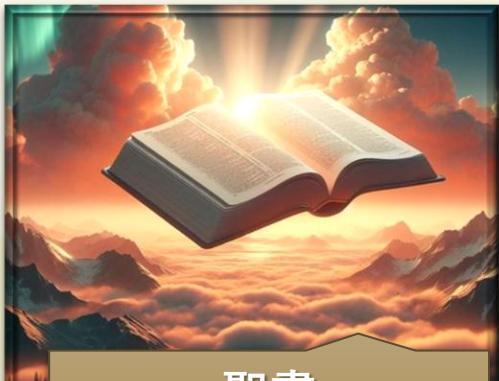
# 祈りの力

そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる靈的な知恵と理解力をもって、神の御旨を深く知り、(コロサイ 1:9)

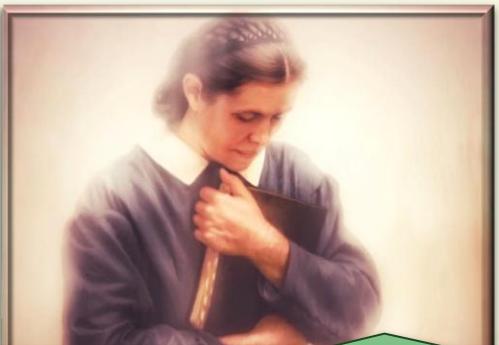
パウロの祈りの願いには、コロサイ人への多くの良いことが含まれています（コロ1:9-11）：



この祈りは  
「父なる神に  
喜びをもって  
感謝をささげ  
ながら」捧げ  
られる。  
(コロ1:12)



聖書  
(詩 119:105)



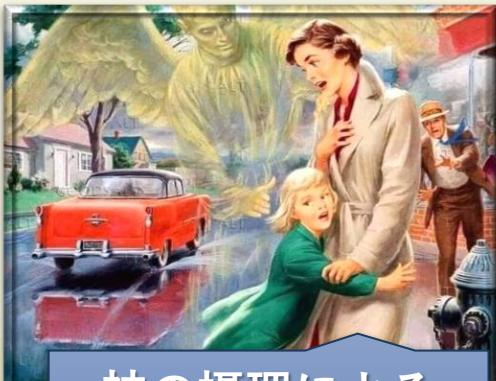
預言の靈（黙19:10）は、  
エレン・G・ホワイトを通して現れた

彼らが神の知識を受け、それによって知恵と靈的な理解が与えられますように。

神の子として生き、あらゆる点で神に喜ばれる  
ようにしなさい

彼らが実を結び、知識において成長しますように

神の力によって強められ、忍耐強くあるように。



神の摂理による  
導き（コロ4:3）



聖靈  
(イザ30:21)

神がパウロの祈りを私たちの中で現実のものとするために働く四つの経路がある：

もし誰かに「神が何らかの形であなたを導いているとどうして分かるのですか」と尋ねられたら、あなたはどう答えますか。  
そしてその理由は何ですか。

わたしたちの命は、キリストの生命と結びつかなければ  
ならない。わたしたちは、常にキリストから受け、天から  
降った生きたパンであるキリストを食べ、いつも新鮮に、  
豊かに、清水という宝を注ぎ出す泉の水を、飲まなければ  
ならない。いつも、主を目の前にあおいで、主に感謝と賛美  
をささげているならば、わたしたちの信仰生活は常に  
新鮮さを保つことができる。わたしたちの祈りは、ちょうど  
友人と語るように、神との会話のかたちになり、神は、  
わたしたちに個人的に、神の神祕について語りかけて  
くださるのである。わたしたちは、しばしば、尊いイエスの  
臨在を身近に感じることがある。